

5 わくわく どーかい愛ランド食堂

一食を通じて“あつたらいいな”が生まれる居場所ー

「道海島には、遊ぶところもお菓子を買いに行くところもない…。」子どもたちのそんな言葉から、道海島小の保護者有志が中心となり、地域食堂「わくわくどーかい愛ランド食堂」は始まりました。

誰でも参加できるこの食堂には、毎回赤ちゃんから高齢者までが集まり大賑わいです。美味しい食事はもちろん、地域の人が野菜をはじめとした食材を届けてくれたり、わたがしやかき氷大会を行ったり…。季節に応じたレクリエーションや現役の先生による夏休みの宿題指導など、さまざまなお楽しみも用意されています。

“あつたらいいな”をみんなで共有して一緒に創る。食を通じて、道海島になくてはならない居場所となっています。



1. 毎回赤ちゃんから高齢者までが集います。
2. 代表の美恵子さんの唐揚げは、みんなに大人気です。
3. 季節の行事に応じたレクリエーションも! ハロウィンでは、仮装してゴミ拾いが行われました。

道海島区長 田上 卓治 さん

道海島は、市内中心部から離れており、筑後川を挟んだ地域で佐賀県(佐賀市、神埼市)に隣接しています。昔から、住民同士のまとまりが良く、助け合いながら暮らしを守ってきました。

「道海島は、他の地域に比べて道路に草が生えていないでしょ?」と田上区長。これは、地域のみなさんが熱心に除草作業をされた賜物。

道海島小学校の子どもたちによる「道海太鼓」は、地域の伝統として子どもたちに引き継がれ、祭りや施設などで演奏されています。「子どもたちが一生懸命練習し、演奏する姿は圧巻。道海島の自慢です。」とのことでした!



3 大川北地域包括支援センター

(社会福祉法人 道海永寿会)

ー高齢者の最初の相談窓口ー

大川北地域包括支援センターは、道海島、三又、向島、榎津、北酒見地区を担当。

最近物忘れが目立つようになってきた、体力が落ちてきた、お金の管理が難しくなってきた、など高齢者の身体のことや生活のこと、介護のことを相談できるところです。どこに相談してよいか分からぬ、家族や近所の人が心配、などの相談も可能です。

「道海島は、あたまと体の健康教室やゆうゆう会(介護予防事業)など他地域に比べ、男性の出席率が高く意欲的。誰でも気兼ねなく参加しやすい雰囲気があるので」と山田主任ケアマネジャー。「これからも健康寿命を延ばして、生き生きと暮らすことができるよう応援していきます」とのことでした!



大川北地域包括支援センター職員の皆さん
(後列左より)高井さん、江田さん、古賀さん
(前列左より)今村さん、江口さん、山田さん

ご相談はお気軽に
TEL 0944-88-1010

4 道海島団地 ちゃのま

ー誰も役を担わない、誰でも来てよい居場所ー

免許も返納し、もしもこのまま地域のお世話役を担うことができなくなったら…。そんな声から始まったのが「ちゃのま」。

食べ物や飲み物、本や脳トレなど各自がやりたいことを持ち寄り自由に過ごせる居場所です。何かと一緒にするのも、一人でぼんやり過ごすのももちろんOK。ゴミは各自で持ち帰る。汚したら自分で掃除するだけがルールです。ここでは、誰も役を担いません。

参加者の方も最初は「何も準備がない中で、どうなるかと心配だったが、フタを開けたら、それぞれが楽しく過ごしている。何より誰かがお世話をしなくてよいのが良い。」とのこと。

「よかごとできるところがいいね。手作りのお漬物やデザートを持ち寄ったりするのも楽しみ。」と皆さんにとって居心地のよい居場所になっている様子でした。



1. 参加者の皆さんでハイチーズ!
2. 思いのまま過ごすことができる居場所です。
3. 地域内の様々な専門職がたまに顔を出すので、健康のこと、介護のこと、生活のことなど気軽に相談することができます。
4. のぼり旗が開催中のしるし。

